

私たち抜きに
私たちのことを
決めるな！

この言葉は今やしょうがい者だけでなく、
様々な当事者運動で聞かれるようになりました。
自身の思いに反して学ぶ場所、暮らす場所、
生き方をも決められている人々の切なる叫びです。
しょうがいをもちながらも、
「自分らしくあること、生きること」を求めて、
あたりまえに生きることをあきらめずに差別や
偏見と闘いながら地域で暮らしてきた人々がいます。
そうした地域生活を長年続け、同じくしょうがいを
持つ人々の地域生活を支援されてきた
木村英子さんをお迎えし、これまでの差別や偏見と
の闘いについて伺います。
そして木村さんも目指す「しょうがい者が
あたりまえに生きられる社会」をどのようにつって
いくのか、ともに考えたいと思います。

9月3日(日) 大集会

第一部 講演 木村 英子さん

手話通訳 / 要約筆記

申込み不要 資料代：¥500

第二部 当事者アピール

13:00～15:40

せんだいメディアテーク
オープンスクエア

(仙台市青葉区春日町2-1)

大行進

16:10～

メディアテーク▶
仙都会館(仙台駅)
解散

みやぎアピール大行動

2023

しょうがいがい者があたりまえに生きられる社会へ



講師 木村 英子さん

(参議院議員・自立ステーションつばさ事務局長・
全国公的介護保障要求者組合組合員)

講師プロフィール

生後8か月の時にしょうがいを負い、幼少期の
ほとんどを施設と養護学校で過ごす。

重度しょうがいしゃは、家族が介護するか、施設
しか生きる場がないという状況の中で、同じく
重度しょうがいしゃで自立して地域で生きて
いる三井絹子らの存在を知り、地域で生活を
することを決意。19歳の時に東京都国立市で
自立生活を始める。

1994年、多摩市でしょうがいしゃの自立を
支援する「自立ステーションつばさ」を設立し、
地域で生活したいと望むしょうがいしゃの自立
支援を行うかたわら、全国公的介護保障要求者
組合の書記長を務め、重度しょうがいしゃが
生きにくい社会を改善するために、厚生労働省や
東京都を相手に仲間と共にしょうがいしゃ運
動を続けている。

多摩市障がい者基本計画等策定市民委員会委員
などを歴任し、2019年参議院議員選挙にて
当選。

(木村英子ホームページより抜粋・一部編集)

主催: **みやぎアピール大行動
実行委員会**

事務局: 仙台市宮城野区松岡町17-1(コッペ内)

Tel: 090-9740-7799(代表: 鷺見)

Fax: 022-299-1279

mail: appeal318@hotmail.co.jp

【みやぎアピール大行動実行委員会とは】

みやぎアピール大行動実行委員会は、障害者自立支援法
“応益負担反対”を訴え、16年前に県内の障害者、家族、支援
者で結成され、現在38団体がつどい、より良い障害者福祉
を求め精力的な活動を行っています。

毎年300人程がつどう集会&パレードを行う取り組みを柱
に、県や市等への各種要望活動などを行っています。